

## 巻頭言「フィジー直行便の就航が決定」

長らく待ち望んでいたフィジー直行便が、この7月から就航する。日本から直接フィジーに飛べるのは、成田・ナンディー間を結んでいたエア・パシフィックが2009年3月に運航停止して以来、実に9年ぶり。

当面は、火・金・日に日本発週3便が計画されている。エアバスA330型を使って、年間8万席が用意されるもようだ。運航会社はフィジー・エアウェイズだが、これはエア・パシフィックが名称変更したもので、以前と同様のフィジー国営航空会社である。これで、日本とフィジーとの距離が、ずいぶんと近づきそうな気がする。航空会社は、直行便再開の記念価格として、往復5万6千円の格安運賃を期間限定で発売すると発表しているので、日本からの観光客も増えそうだ。

かつて、フィジーを訪れた日本人は最高時で年間4万5千人、2000年代初頭は2万5千人前後で推移していたが、路線廃止後の現在では7千人を割り込むほどまで落ち込んでいる。フィジーの観光地としての魅力に何ら変化があったわけではないのに、これだけ急減したのは、明らかに韓国か豪州経由で行かねばならない交通の不便さゆえであった。これは観光産業にとって、交通手段の整備がいかに大切かを示唆する好事例だろう。

ところで、南の島といえば「楽園」、あるいは「リゾート地」を連想する日本人の傾向は、今も根強い。それは間違いない、ハワイ、グアム、サイパン、タヒチ、ニューカレドニア等々の名だたるリゾート地のイメージに起因している。だが、ここに挙げた島々は、いずれも米領か仏領で、独立国は一つも含まれていない。それは、島嶼地域で観光業が発展している国があまりないとの裏返しだ。その理由は、多くの島々には大量の観光客を呼べるだけの社会基盤が整っていないからなのである。

美しい珊瑚礁の海、熱帯・亜熱帯の木々が生い茂る楽園風の景観、それらはどこの島にもある共通の潜在資源であって、それを産業に結び付けるには、開発の基本となる社会的基盤が必要となる。既述した米領・仏領地域は、軍事基地か植民地統治拠点地として社会的基盤が整っていたところばかり。だからその上に、観光産業の開発を容易に手がけることができた。それに対して、未開発の島に、例えばホテル一つ建設するにも、上下水道、電気、道路、あるいは港や飛行場等々の整備を視野に入れなければ、ホテル事業そのものが機能しない。これを全て民間企業が独自で開発するのだとしたら、荷が重すぎてビジネスとしてはとうてい成り立ち難いだろう。いく

ら美しい島嶼環境を有していても、島々に観光業がなかなか育ちにくい理由がここにある。

だから、まずは社会的基盤の整備、その次に航空路の開設が求められる。だが、これは公共事業と言うべきものだから、先進国や国際機関が観光産業への開発支援を行うのであれば、この分野に特化した協力・支援を優先するべきだ。これなくして、いくら綺麗な海や魅力的な地元文化を国外に広報・宣伝しても、さらには地元民が接客業のノウハウを身につける訓練を受けても、ほとんど観光産業の発展にはつながらない。

このように言うと、「自然の魅力を生かして、エコツーリズムを目指せば良い。これなら大きなホテルも大人口地からの直行飛行便も必要ない」と反論されることがある。しかし、エコツーリズムでは外来者のリゾート地にはならないし、基幹産業への発展もない。よってこの件は、島嶼国の産業開発とはまた別次元の議論になる。

とはいって、自然破壊を最小限に食い止める観光のあり方は、小さな島々には重要で、私の趣味からしても好ましい方向性だ。というのも、仮に不利条件を克服して観光開発に成功しても、闇雲な開発を進行させると修復不能な資源破壊に陥る。そうした懸念を抱かせる事例として、観光の産業化に成功した数少ない独立国パラオがある。

人口2万人程のパラオはここ数年観光客が急増、2015年には総数16万人を突破した。これで、海浜汚染や宿泊環境等の悪化が進み、リゾート地としてのアメニティ一度が低下。これにいち早く反応したのが日本人で、中国人だらけのリゾート環境を嫌って一気にその数を減らしたのだ。これに見かねたパラオ政府は、中国からの直行便数を制限し、格安から高級化への質的転換を目指すとした。こんな矢先に、デルタ航空が日本発パラオ直行便をこの5月で運行停止すると発表。これで、年間2万5千人前後に減った日本人のさらなる減少は免れないだろう。

基幹産業の急激な拡大と縮小が、国家運営に与えるマイナスの影響は計り知れない。幸いにもパラオでは、自然も観光業も、未だ致命的な崩壊段階には達していないので、今後の政策如何で安定産業へと立て直すのは可能だろうが、いずれにせよ、「南の島は楽園だから、観光開発が容易」とはならない現実を、知っておかねばならない。

南の島に、自分の楽園イメージを重ね合せることがあってもいい。だが、島々の開発問題に楽園信奉を持ち出す短絡指向が未だあるとすれば、もういい加減に返上すべきではないか。

(小林 泉)